

1 学校プールのあり方について

学校に設置されているプールは、その利用期間は短いものの、一般的に10～20年毎に改修が必要で、構造的にも使用年数は「40年程度」といわれている。  
 本市のプールは、主に1970年代から一斉に整備したため、現在では築40年経過したものが11校（全体の46%）となっており、大規模改修等の実施時期を迎えている。  
 今後、限られた財源の中で、校舎や屋内運動場等の教育施設の整備とともに、プールの老朽化対策を進めることは困難であり、また、児童・生徒の安全面や、教職員の負担軽減の面からも、学校プールのあり方を検討していく。

◆現状

- ① 児童・生徒
  - ・健康管理、衛生管理、水質管理、けが防止等の安全管理
  - ・授業の目的・・・小学校＝「水に慣れる」 中学校＝「泳法指導」
- ② 教職員（指導者）
  - ・プール清掃、ろ過機の操作・維持管理、水質検査、塩素等薬剤の補充  
 研修受講、日常清掃、水位・漏水確認、日誌の作成ほか

学校名	建築年度	経過年数	学校名	建築年度	経過年数	学校名	建築年度	経過年数
亀山小学校	S37	56	野田小学校	S52	41	田原中学校	S62	31
福江小学校	S45	48	神戸小学校	S53	40	伊良湖岬中学校	H3	27
田原東部小学校	S47	46	伊良湖岬小学校	S53	40	泉中学校	H4	26
泉小学校	S47	46	田原中部小学校	S55	38	若戸小学校	H5	25
童浦小学校	S48	45	中山小学校	S58	35	赤羽根中学校	H5	25
田原南部小学校	S49	44	衣笠小学校	S59	34	福江中学校	H5	25
大草小学校	S50	43	清田小学校	S60	33	高松小学校	H7	23
六連小学校	S51	42	東部中学校	S60	33	赤羽根小学校	H9	21

◆検討事項

- ① 学校プール再編方針の検討
  - ・学校プールの集約（合同授業）、民間プールの活用、市民プールの整備
  - ・水泳指導補助（インストラクター）の民間委託
  - ・移動手段（スクールバスの運行）、授業の方法
- ② 学校プールあり方検討会の開催
  - ・学校プールのあり方について、学校現場との意見交換を実施

◆確認事項

- ① 伊良湖岬小学校【令和3年9月竣工予定】にはプールを設置しない。（亀山小等での合同授業を検討する。）
- ② 童浦小学校【大規模改修（令和7年度竣工予定）】は、児童数が多いため、既設プールを改修し引き続き利用する。

2 スクールバスの運用について

★スクールバスの直営について検討する★

スクールバスについては、大型バス・中型バス、マイクロバス合わせて9台を委託業務しており、年間で約106,000千円（1台当たり年間約12,000千円）となっている。  
 更に、2年後に控えた赤羽根中学校と泉中学校の統合後の際もスクールバスが必要となり、今以上に財政負担が増加することから、スクールバスの「直営」を検討していく。

◆直営にすることによる相乗効果

直営にすることで、登下校時以外の時間帯をプール授業や校外授業等への移動手段に利用が可能となる（全校）。更に、運行業務時間外に、再任用（臨時）職員が各学校の草刈り等雑用業務ができる。（運転手は、広く一般募集などを行い雇用促進も図る。）

業務方式	メリット	デメリット
委託業務	車、運転手等運行管理をすべて受託業者が行うため、教育委員会の人的負担が少ない。 長期継続契約により、必要経費が平準化される。 故障、車検時でも代車が用意できる。	トータルコストが市直営に比べ高額。 契約内容にもよるが基本的に他業務への運行はできない。
市直営	空いている時間に市内行事・部活大会等の送迎等に活用可能。 送迎以外の時間に学校の草刈り、簡単な修繕等を行うことによる教員多忙化解消。 トータルコストが委託に比べ安価。 プール共同利用の際、送迎に使用できる可能性あり。 車両使用年数が長くなるほどトータルコストが委託の場合より抑えられる。	初年度の経費が高額になる。 車両、運転手等運行管理における事務負担の増加。 故障、車検時の車両確保が困難。 運転手が休んだ場合の代わりの確保が困難。 6年目以降、車両残存価格が1割のため事故等により車両更新が必要になった場合の費用や納車までの代車費用等のリスク。

◆委託と直営との比較（概算）

委託	学校名	バス必要台数	2019年度	2021年度	2022年度
	童浦小	マイクロ①	106,000千円	138,000千円	123,000千円
伊良湖岬小	大型①、中型②				
福江中	大型①、中型②、マイクロ①				
赤羽根中	大型①、中型①				
田原中	中型②（定期バス）				
5校		10～12台	※赤羽根中&泉中の統合前	※赤羽根中&泉中の統合後	※伊良湖岬小の車両減

直営	内容	種別	数量	1年目	2年目以降
	車両購入費		大型バス	2	190,000千円
中型バス			6		
マイクロバス			2		
維持管理費		車検、維持、燃料		8,000千円	11,000千円
人件費		臨時職員等	21	74,000千円	74,000千円
合計				272,000千円	85,000千円

◆検討事項

- ☆ バス購入（直営開始）の時期及び維持管理方法
  - ・必要車両台数（10～12台）の確保 ※予備車両（車検や故障時対応）含む
  - ・運転手及び車両駐車場等の確保
  - ・東京オリンピック終了までは車両不足。※オリンピックで使用したバスが購入可能か。
  - ・財源の確保。※スクールバス購入に係る国庫補助あり